

「本にふれる機会を」 図書室の環境づくり



左の2枚の写真、違いがわかりますか。

図書室の壁面です。

市教委から依頼を受けた2名の図書サポーターさんが、定期的に各学校を訪問し、子どもたちが本に親しめるよう環境づくりをしています。今回、上の写真から下の写真



に変えていただきました。図書の時間に変化に気づいた子どもたちが付け加えられたところや変わったところを見つけて楽しそうに話をしていました。

学校でも高学年の子どもたちが委員会活動などを通して、新しく購入した本の紹介や各学年の教室に学年に応じた本を届けるなどの活動をしています。が、図書サポーターさんに季節にあった本の紹介など、子どもたちが本を手にしてみたいと感じる環境を整えていただいていることはありがたい限りです。





立命館アジア太平洋大学学長の出口治明さんは人が賢くなる方法は「人に出会うこと」「本を読むこと」「旅に出かけること」に尽きると話されています。出口さんは著書で、「子どものころはよく図書館に行っていた。そこで、本が好きになり、図書館のほとんどの本を読んだ。」と話されていました。また、最近、地域の方に図書館を案内したときに、「私が小学校の頃は、竹田小の図書館には、過去の新聞がたくさんおいてあり、それを読むのが大好きだった」と楽しそうに話されていました。

今後も多くの方々のお力をかりながら、子どもたちが本に触れる環境を整えていきたいと思います。